業務資料No.248

内田クレペリン精神検査法実施の手引
(人柄類型と曲線の判定)

昭和48年7月

海外移住事業団

JICA
000
281
EM
LIBRARY

国際協力事業団	
受入月日 '84. 5. 22	000
	28.1
登録No. 06610	EM

内田クレペリン精神検査法実施の手引
（人柄類型と曲線の判定）

目　　次

1. 第２系列符号判定と人柄判定 …… 2
2. 検査実施上の注意 …… 5
3. 人柄類型の観点 …… 9
4. 人柄類型別特性と曲線 …… 11
5. 曲線判定の基本 …… 29
6. 判定項目一覧 …… 33
7. 矢田部ギルフォード性格検査法について …… 35
8. クレペリン人柄類型とＹ－Ｇ検査 …… 43

JICA LIBRARY
1020967[4]
国際協力事業団
受入 月日 53. 1. 31
登録No. 6760

はじめに

技術移住者の選考判定要素の一つとして，移住者の精神構造があり，内田クレペリン精神検査法の実施によって，技術面・人物面とあわせ適否判定を行なっている。

クレペリン検査上の適否判定の基準は，重度比定型に属する者ならびに極度に作業能力が不足し処理能力、作業速度が明らかに劣等視される者を不適格とし，定型の特徴が失われ，非定型の特徴が強い場合等においては他の主要判定要素を勘案し，適格者選考調書内容を斟酌して総合判断を行なっているところである。

クレペリン検査の活用については，これら第2系列符号判定にあわせて第1系列的見方，即ち人柄の具体的内容を明らかにし，現地推せん時に支部へ連絡し，訓練ならびに指導上何らかの形で役立てたいと考えており，同時に就労先においても移住者個々の特性・人柄を把握願うことが適性配置と指導上有効と判断されるところでもあるので，クレペリンテストを単に選考の手段のみにとどめず，こういった面にも活用をはかっていきたいと考えている。

本手引はクレペリン検査の正確な実施を再確認願うとともに曲線判定を第1系列の人柄判定法概要により説明し，クレペリン検査の意義とあらましを理解願うためまとめたものであるが、平素の業務上絶えず接するクレペリン曲線について，曲線型に馴じみ，曲線を比較して判断する目を養うことに少しでも役立てば幸いである。

なお，雇用農移住者等に関して利用している矢田部ギルフォード性格検査の実施方法と診断法について末尾に掲載したので業務の参考とされたい。

昭和48年7月1日

業務第1部長

参考文献　人間の理解ー東京心理技術研究会

I. 第2系列符号判定と人柄判定

従来より一般的に普及している内田クレペリン精神検査は，第2系列の見方と呼ばれ，性質，性格を見る第1系列の見方に対し，作業のよし悪し，仕事ぶり，その人の健全さというものが主となる見方で，これを第2系列の見方と呼んでいる。

第2系列符号判定は，作業量の水準，作業曲線の型，誤答の状況より検討して定型←→比定型の程度づけを行なうという判定法であるが、当手引では前者即ち「第1系列の見方ー曲線と人柄の見方」についてその概要を説明する。

第2系列符号判定と人柄判定法によりそれぞれ判定した結果を例示すると次のとおりである。

両方式により被検者の作業能力，仕事への習熟度，性格，行動の特性（以上第2系列符号判定）及び人柄特性が明確に浮彫りされているが、2例とも人柄類型と内田クレペリン精神検査判定票の"コメント"が一致を見ており，例1は「こまかいことに気を使う神経質なタイプ」，例2は「意志の強い，強気な型」となっている。

例１

人柄判定

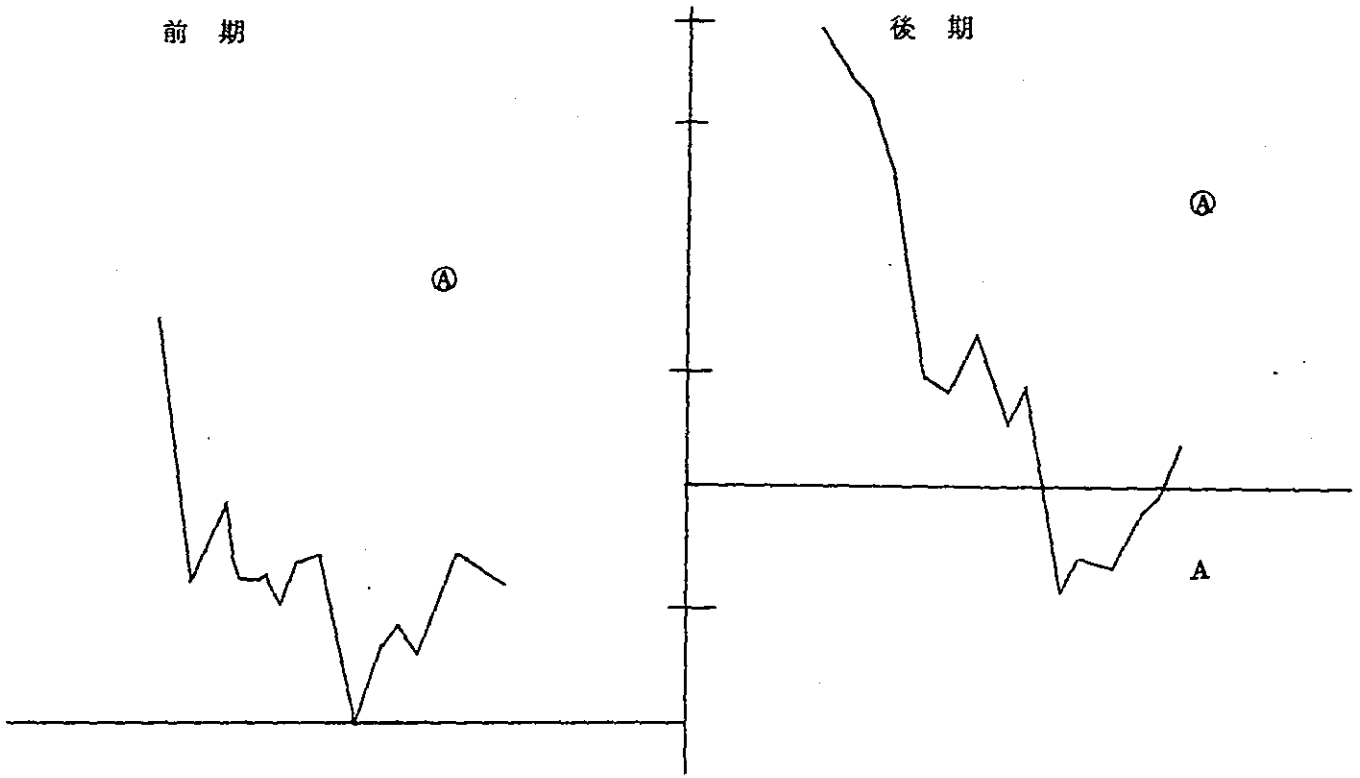
№２－神経質型

こまかい気使いあり，反応は敏感だが控え目。決断を欠き易く粘りが不足する。

内田クレペリン精神検査判定票

（ａ'ｆ－定型）

気がよくまわり，時にこまかく気にする。あまり表だたないが気づかいすることが多く気疲れしやすい。



例2

人柄判定

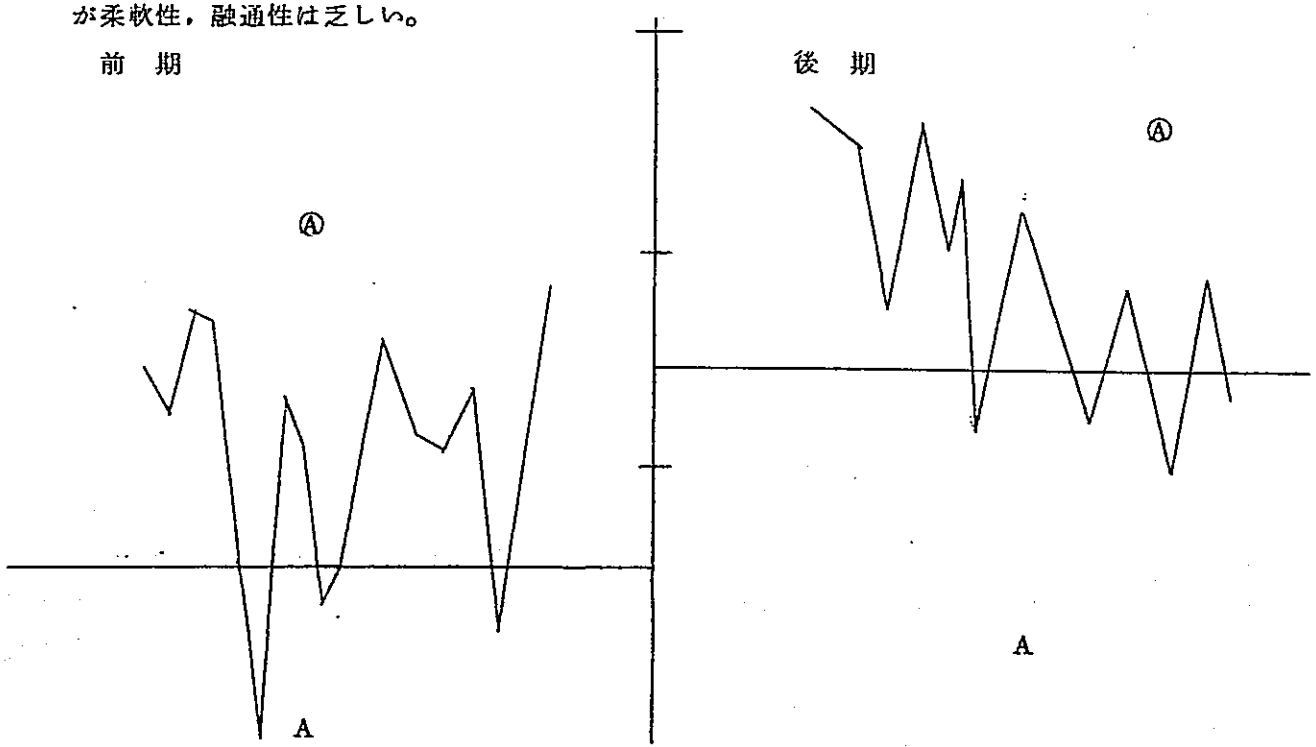
M64　強気敢行型

人当り強く，強気で実行力あるも独断専行の傾向が出易い。現実的，実際的で意志は強いが柔軟性，融通性は乏しい。

内田クレペリン精神検査判定票

（ a'f ～ f Ⓐ－準定型 ）

気負いたちすぎてかえってつまづきやすい。意欲的だがやや自分のペースを乱しやすい。



2　検査実施上の注意

クレペリン精神検査は，作業を一定時間くりかえしたときの精神機能の法則が曲線の形になっているので検査方法に正確さを欠き，不自然な曲線が現われると判定が困難となり，誤った判定となりかねない。

したがって検査の実施，整理には特に注意が必要であり，検査者側の馴れにより実施の手順の省略や正確さを欠くことのないよう注意が必要である。

(1)　検査場の選定

通常支部事務所の相談室，選考会場に選んだ会議室等で行なわれると思われるが、次の点に留意する。

ア　電話や意味の判る話し声の聞こえる状態は好ましくない。

イ　検査を受ける机の巾に余裕を持たせる。机上が凸凹したものは避ける。

ウ　小人数で実施の場合，検査者が被検査者と差向うとか並ぶなど極端な近距離に位置し，心理的圧迫を与えることを避ける。

(2)　検査に必要なもの

鉛筆（１人当り２～３本，硬度ＨＢ程度）

検査用紙（１人当り１枚，標準Ｉ型を使用）このほか検査者用として説明のため１枚を用意する。

(3)　検査準備

ア　検査用紙の配布

～裏返して配布し，検査者の指示がある迄表を見ないよう注意。

イ　その他

～机上には検査用紙のほかは鉛筆だけを置く。

(4)　検査の説明と練習

ア　説　明

用紙は伏せたまま記入方法の説明を黒板を用いて行なう。黒板の用意がない場合は検査用紙"レンシュウ"の箇所の一部をあらかじめ図表にし，説明できるよう準備を行なう。

注　従来説明を直ちに検査用紙練習欄を用いて行なうという解説書もあるが，説明と練習は切り離し別々に行なう方がよい。

イ　練習の実施

説明による記入方法の徹底を確認した後，ここではじめて検査用紙の表を開かせ，"レンシュウ"と書いた方を左上にあるようにする。

この場合，氏名その他を記入したり鉛筆を持ったりしないよう注意する。

練　習

①　1行目を40秒

②　2行目～5行目は各20秒

注意事項

①　練習は必ず本検査実施と同じ要領で行なう。（注，1行目より継続実施して差支えない。）

②　即ち，号令は「鉛筆を持って」「用意・始め」でスタートし，40秒で「はい，次」の号令をかける。

③　2行目よりは上記のとおり各20秒ずつ記入させる。

④　5行目迄終了した後，被検査者の記入状況を見廻り，正しく記入されていない場合は指導する。

⑤　説明時における記入方法の徹底確認と同様，疑問点がないか再度確認する。

⑥　その他

行を飛ばした誤りがあった場合，気がついても元へ返らずにそのまま継続するよう注意する。

誤記入の訂正は消ゴムを使用しないよう，鉛筆で棒を引いて訂正する。

(5)　検査の開始

以上の練習終了後検査本番をむかえる訳であるが，本番ももちろん練習と同様検査者の号令にしたがって行なうよう注意を要する。

検査の順序及び注意事項は次のとおりである。

ア　順　　序

① 検査（サキ）　1～15行目迄　　15分

② 休憩　　5分

③ 検査（アト）　1～15行目迄　　15分

④ 検査後の氏名等の記入

(6) 検査後の整理

ア　作業曲線の引き方

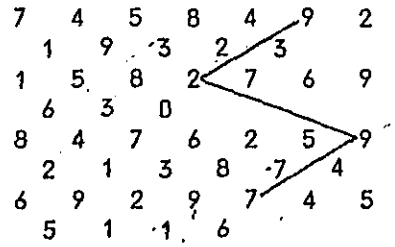
前期，後期とも答の右側の数字を1行目から15行目まで赤エンピツで（定規使用）結ぶ。

注意事項

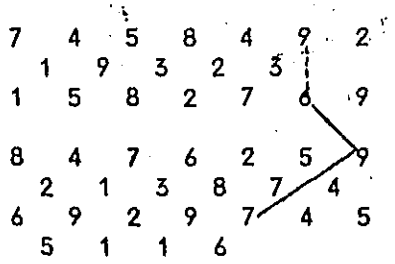
① 赤エンピツの作業曲線は太い線でむらのないよう結ぶ。

② 線引きは下より上へ引く方が能率的

例



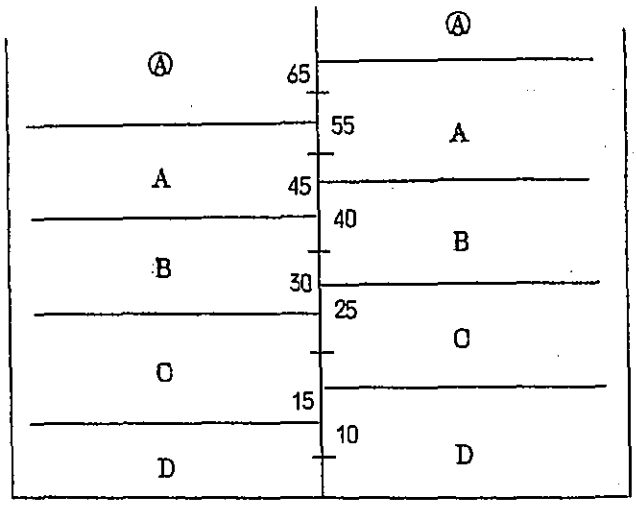
例　行を飛ばして記入した場合



行飛ばしの上の行より垂直に線を引き左のように「6」へ下から線を引く。

イ　量級線の引き方

用紙中央の線上の仕切点により下記例のとおり左右に（前期１０，２５，４０，５５。後期１５，３０，４５，６５）青エンピツで量級線を引き符号をつける。



ウ　答の正誤しらべ

前，後期とも１１行目（４で始る行）をチエックし，誤りのある場合はその答を赤エンピツにより○で囲み（記入洩れは△）誤答調べ完了のしるしに左へV印をつける。３箇以上誤りがある場合は前後の行をチェックする。

(7)　その他検査上の注意事項

ア　ストップウオッチは６０秒ごとに「行を変える号令"はい次"」をかけ連続して行なう。（６０秒ごとに秒針を元へ戻さず必ず連続して行なうこと。）

イ　号令をかけ忘れた場合はその行に限り区切りのよい７０秒まで継続し，（次の行よりは規定どおり６０秒）作業曲線を引く際1/7をへらし修正

する。

3. 人柄類型の観点

第2系列符号判定の見方が精神健康の良否から曲線を眺めているのに対し「人柄判定法」はその具体的内容を知ることを主眼として曲線を分類し人柄別の判定を行なおうとするものである。

第4項の「人柄類型別特性と曲線」にはいる前に人柄の把握についての基本的な考え方の概要につき解説する。

(1) 人柄の把握についての考え方

精神現象の区分をごく簡単に表現して知，情，意としても知は知能をはじめ判断，推理，思考に関するものから種々の能力に至る迄実に数多く含まれ，また情といっても明るい，暗い，神経をやむ，不安を感ずる等々その分類は広く，意についてもまた広範囲に及んでおり，測定は極めて困難である。

当人柄判定法は人間を知る尺度として一定の単純な加算作業で得た曲線を２０数年を費して似たもの同志を集め幾つかの類型に分類し，環境による変化・自然変化のリズム・人柄の相違による変化の特異性を加味して現在の基本１０類型を見出したものである。

(2) 人柄の類型

ア　名　称～人柄類型には次のように背番号を付し名称は判り易くかつ内容がほぼ推定できるようなものとなっている。

1. おだやか型
2. 神経質型
3. 躁うつ型
   - 3－1　朗らか型
   - 3－1d　じっくり型
   - 3－2　温和型

3－3　抑うつ型

3－4　循環型

4.　強気敢行型

5.　地道粘り型

6.　あっさり実行型

7.　内的安定型

8.　分裂型

8－1　むき熱中型

8－2　鈍麻型

8－3　自閉型

8－4　敏感型

8－5　停電型

9.　自己顕示型

10.　粘　着　型

イ　人柄分類の観点（人柄説明の4つのタイプ）

①　社会性

社会生活上の人さまざまな対人関係上の特徴を判定する。

人当り，素直さ，打ちとけ方，調子，強気，弱気，協調，選択性の度合いなど。

②　仕事ぶり

仕事をする上での特徴（手堅い，大ざっぱ，徹底の仕方など）能率などの面から性格上の特性を見出だす。

③　ものの考え方

行動特性の元となる頭の中の働き，考え方より性格把握の見どころとするものであり，中庸，固執，妥協，敏感，自己主張などの点を判定する。

④　情意の状態

さまざまな感情や意志によって彩られる特徴をもって性格把握の見どころとするもので，喜怒哀楽の感情の表わし方，強さ，早さ，継続の具合や意志の具合を見る。

4.人柄類型別特性と曲線

人柄類型ごとの社会性，仕事ぶり，物の考え方，情意の状態及び難点、不健康時に表われる特徴ならびにそれぞれの曲線（特徴）を記すと次の通りである。

例1.　おだやか型

（特　徴）

1.　ゆるやかに下降する。
　（曲線の基本傾向）

2.　全体に動き巾が狭い。
　（曲線の動きの範囲）

3.　動き方は小きざみ。
　（曲線の動き方）

社会性～人当りやわらかく素直，従順，協調的

仕事ぶり～慎重，細心，確実

考え方～中庸，妥協的

情意の状態～表現柔かく，素直に表現

難点～積極的な気分に欠けやすい。

不健康時～気力不足，引込思案，小心

No 2.　神経質型

（特　徴）

1. 大きく下降
2. 動き巾が狭い
3. 動き方小きざみ
   初頭がよく出る。

社会性～人当りやわらかく素直，こまかいことに気を使い控え目。

仕事ぶり～決断を欠き易く，手間どるが確実さあり，疲れ易く粘り不足。

考え方～現実，実際的で中庸，自説を強調することなく逃避傾向あり。

情　意～反応は敏感，気づかい細かく腹中にこもり易い，表現は豊かでない。

難　点－細かいことに気を使いすぎる。

不健康時－神経質，こまかさが原因でそれが高まると無口，引込思案，自信喪失の症状が出る。

注意　下降の大きい点が「No 6 あっさり実行型」と似ているがNo 2とNo 6は全く反対の性格であるので特に判定に注意を要する。

（№6は曲線の動き巾が大きく，動き方が強い）

№3－1　朗らか型

a　躁の割合が大きい場合

若干上昇傾向

b　a，cの中間

c　うつの割合が大きい場合

若干下降傾向

№3の型は躁うつ型とも呼ばれ，躁の因子とうつの因子の交わり具合により分類される。

「3－1朗らか型」は一般に躁の因子大，「3－1d じっくり型」はうつの因子大，「3－2温和型」は躁うつが循環することは前二者と同じであるが温和さが目立つ点が特徴である。

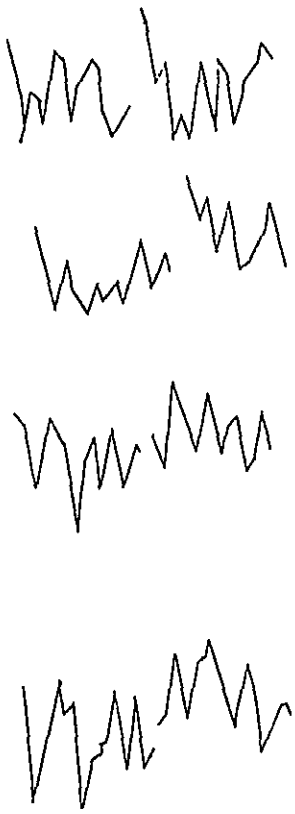
（特　徴）

1. 極端な上昇も下降も示さず※平均曲線に近く，※ゆるまない（注※平均曲線※ゆるまないは5曲線判定の基本を参照）
2. 動き巾が大
3. 動き方は丸い（※丸いは5.曲線判定の基本を参照）

初頭が出る。

注～曲線の動きは凸凹しているが，あまりゴツゴツ角ばったり鋭さはない。

やや判定に困難さがあるが他の型と比較しながらだんだん会得すること。



社会性～誰とでも親しみ明るく元気

仕事ぶり～適応早く融通性あり能率的，手広く実行するが奥行は浅い。

考え方～現実的，実際的に割り切り形式ばったり理論ばることはない。

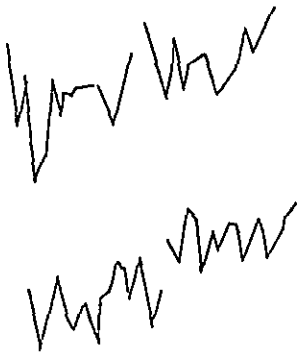
情　意～喜怒哀楽の情をそのまま表に現わすが，長くくすぶることなく変り身が早い。

意志は積極的，実行的だが１つの事に粘り抜く持久力，耐久力に欠ける。

難　　点～意志不定

不健康時～注意散漫，お調子もの，あきっぽさ

仮３－１ｄ　じっくり型



（特　徴）

1. 曲線の基本傾向は上昇（尻上り）を示す。
2. 動き巾大
3. 動き方は丸い

初頭は出ないことが多い。

注～曲線の動きは凸凹して「３－１朗らか型」に似ている

がこの型は初頭が出なくて尻上りである。

社会性～口数少なく，おっとり型，気軽さ，あけっぴろげなくやんわりした感じ。

仕事ぶり～朗らか型より適応性遅く，てきぱきした早さなし。

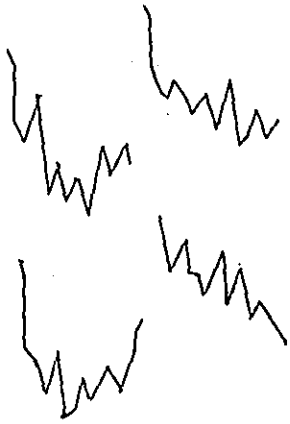
考え方～確実，慎重，じっくり筋を通す態度

情　意～表現は押えがち，腹の底には同調感，共感性あり当りは柔かい。辛抱強く粘りがある。

難　　点－気の重さ

不健康時－気の重さが亢進すると悲観的，神経質的となる。場合により片意地，強情，頑固の特徴が生まれる。

図3－2　温和型



（特　徴）

1. 曲線の基本傾向は湾曲
2. 動き巾は狭い
3. 動き方は丸い

初頭はよく出る。

注～前期は比較的長くゆるやかに下降しながら湾のようにふところの広い孤を描く。

後期は比較的長くゆるやかに下降する。

社会性～気分明るく陽気でしたしみ易いが「3－1朗らか型」のように，はしやぎ，動きの早さはなく，ゆったりとした温和さがある。

仕事ぶり～適応性，柔軟性あり，朗らか型のように一気に飛ばすことなく，確実で慎重である。粘り気迫が欠ける。

考え方～現実を素直に認め妥協的，折衷的，協調的。

情　意～喜怒哀楽の表情が「3－1朗らか型」のように開けっ放しで強くはなく，表情は豊かで柔らかい。

難　点－温和にすぎて気迫に欠ける。

不健康時－お人好し，無気力，悲観，くよくよなどの点が目立つ。

※3－3抑うつ型，※3－4循環型は省略。

No 4.　強気敢行型

（特　徴）

1.　曲線基本傾向は※ゆるまず，大体上昇傾向

2.　動き巾非常に大

3.　動き方は強い

初頭は出ない場合が多い。

注～不規則にゴツゴツし角度鋭く，湾曲した孤を描かない。（「3－1朗らか型」より凸凹の角度大きく強い感じがある。）

社会性～つき合いは広いが人の好き嫌いがはっきりしており，強気で義侠心あり。人当りは強く硬く柔らかい感じは乏しい。

仕事ぶり～即座に実行し，一挙にまとめ上げる。喰いついたら離さない粘り強さの反面独断専行の傾きも出る。

考え方～現実的，実際的で理論にすぎて現実を遊離することはない。慣習やしきたりを尊重し，義理人情的なものを基調とする考え方が強い。

情　意～感情はあけすけで飾り気なく，はげしく強く，一挙に表現し，意志力は強い。柔軟性，融通性は

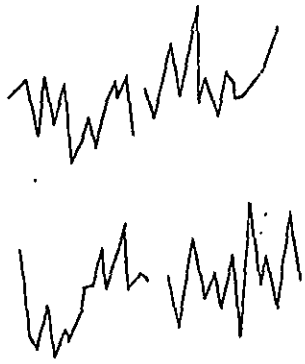


図5. 地道粘り型

乏しい。

難　　点ー強気にすぎる。

不健康時ー強気が健康な精神と結ぶと強い実行力として現われるが，不健康な場合は抑制がきかず，気まま，強情，得手勝手，暴力となって現われる。

（特　徴）

1. 曲線は上昇，下降も特に示さず「3－1朗らか型」のようにゆるまない凸凹を示す。
2. 動き巾はやや大
3. 動き方は固い

初頭は出ない場合が多い，また特定数字に誤りが出ることがある。

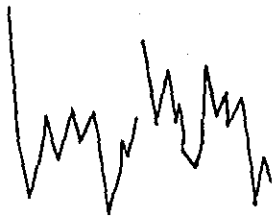
注～前期は「3－1朗らか型」のような経過をとるが，後期に初頭を欠き，一たん盛上るがその後は下がる。

曲線は朗らか型より鋭いが「4.強気敢行型」よりはなだらかである。

社会性～口数少なく控え目，一たんなじめば交り深く，責任感あり信

No 6　あつさり実行型

No 6 あっさり実行型



義を重んじ自己を捨てても人に尽すタイプ

仕事ぶり～早くはないが手堅くこつこつ粘る。

考え方～筋を通し妥協，折衷，容易さなし。但し現実的，実際的であり理くつばることは余りない。

情　意～むっつり表情に乏しい。ときに短期な面も出，内にともったものが突如爆発することもあるが感情が長く尾を引くことはない。

難　　点～適応が遅い，柔軟性不足

不健康時～無口，自己中心的，頑固，強情，短気の徴候が出る。

（特　徴）

1. 曲線の基本傾向は下降大
2. 動き巾大
3. 動き方強し

初頭はよく出る。

注～前後期とも初頭の飛出しが大きく，あとぐんぐん下降する。下降の大きい点は「2.神経質型」と類似しているが曲線の動き巾が大きく，動き方が強

いという点で区別できる。

（No.6.とNo.2.は全く逆の性格であるので判定上注意を要す。）

社会性～開けっぴろげでこだわりなく，さばさばしている。反面好き嫌いははっきりしており自己中心的な面も出る。協調性なども欠き易い。

仕事ぶり～適応，速度とも早いが充分な吟味，とことんやり抜く粘りに欠け易い。

考え方～現実的，経験的に割切って考え，思いついたらすぐ実行する。

情　意～感情はあけっぱなしで激しく強く，さらっとして変り身が早い。持久力，耐久力は欠け易い。

難　　点ーブレーキ不足

不健康時ー心のブレーキがかからなくなり問題となる行動が起る。また出しやばり，投やり，無鉄砲な行動をとる。

No 7.　内的安定型

（特　徴）

1. 曲線の基本傾向は上昇
2. 動き巾小
3. 動き方小きざみ

注〜「3－1明らか型」「3－1 d じっくり型」と類似しているが相違点，判定のポイントは次のとおり。

No 7

基本傾向	動きの巾	動き方	初頭
上昇	小	小きざみ	出る

※全体に上昇傾向で下降がなく動き巾が狭い。

No 3－1

基本傾向　動きの巾　動き方　初頭
ゆるまない　　大　　丸い　よく出る
※凸凹は大きく間断なく上下（ゆるまない）するが，固さ，強さ（大きい角ばり）はない。

No.3－1d

基本傾向　動きの巾　動き方　初頭
上昇　　やや大　　丸い　あまり
（ゆるまない）　　　　出ない
※初頭が出ない（3－1に比し小さい）ほか凸凹が大で曲線がゆるまず丸い点は3－1と似ているが全体的に尻上りの傾向を示す。

社会性～誰とでも親しみ協調性あり安定，中庸。
仕事ぶり～特に早くはないが適度に適応，柔軟で融通がきく。
考え方～いつも中道を歩む確かさがある。
情　意～素直。意志の強さは感じさせないが粘りがある。

難　　点ー特にこれといったものがないが積極性，機動性といったものにやや欠ける。

不健康時ーほとんど問題ないが消極，意気消沈，動きの鈍さの程度。

No8　分裂型

分裂型には次の５つの型があり，曲線型はそれぞれ異なるが，人柄の特徴としては次のとおりである。

社会性～人嫌いで自己中心，人間以外のものに関心を示す。

仕事ぶり～選択性強く凝り性。

物の考え方～理想を追い，理論的，形式的，独善的で自己主張。

情　意～感情は内にこもり判断不能，ともに喜び悲しむようなことはない。

難　　点ー社会性乏しく自己中心的，機能がすぐ発動しない。

不健康時～無口，孤独，ひとりよがり，冷淡，無精，強情，変屈。

注～すべての型が躁⇆うつの関係を持つように，この型は敏感

⇆鈍麻の両極間を行き来したり，あるいはその極のどちらかの近くで固定していることで行動特性が異なってくる。

また分裂型の特徴として，作業障害（精神機能の発動の遅いことや作業の途中で機能が停止すること。）があるが，とくにこの点の強いものが含まれており，これらをまとめると次の５つの型が生まれてくる。

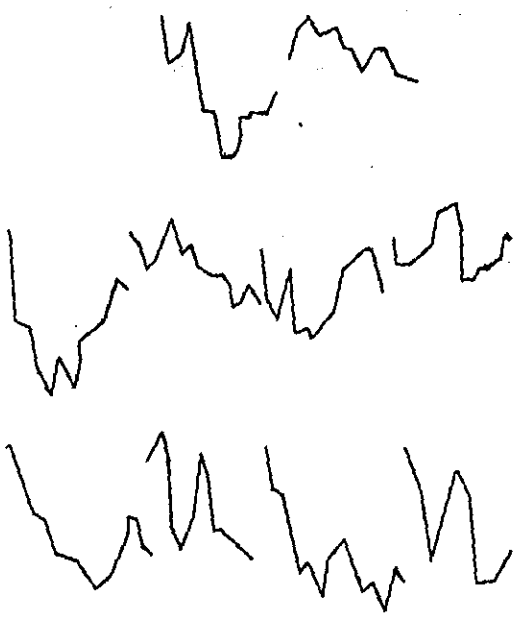
８－１　むき熱中型

（特　徴）

1. 曲線は上昇傾向
2. 動き巾大
3. 動き方鋭い

注～初頭が出ず鋭い歯型で上昇。分裂型の中では最も積極的，活動的。分裂型の中では外向的傾向を持つ。

8－2　鈍麻型



（特　徴）

1.　曲線基本傾向は不定（平担に近い）

2.　動き巾小

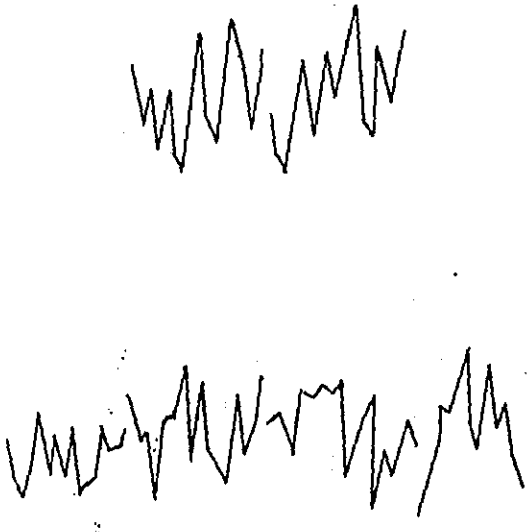
3.　動き方はのっぺり

注～若干の上昇，下降はあるがのっぺりとして変化に乏しい。

初頭は出ないことが多い。

無感動，無関心，進んで取り組む積極性なし，外面へは全く現われない。

8－3　自閉型



（特　徴）

1.　曲線は上昇

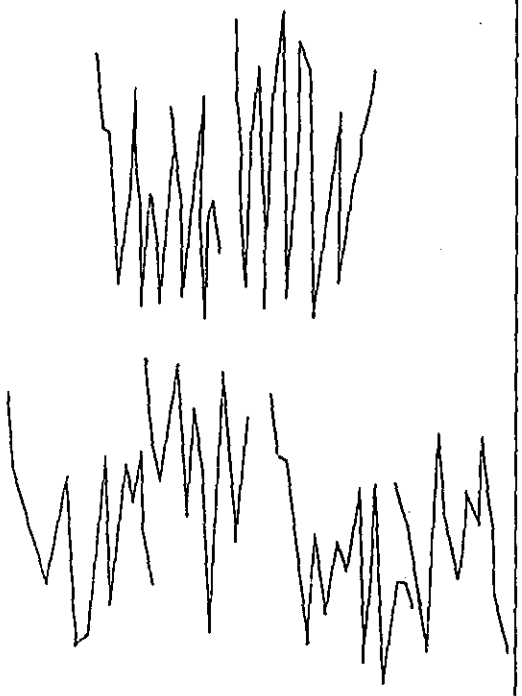
2.　動き巾大

3.　動き方鋭い

注～初頭が出ず鋭い歯型で上昇，「8－1むき熱中型」より上昇角度が小さい。

孤独で内にこもり迷い心配性，用心深く躊躇，気がねが多い。

8－4　敏　感　型



（特　徴）

1.　曲線の基本傾向は不定

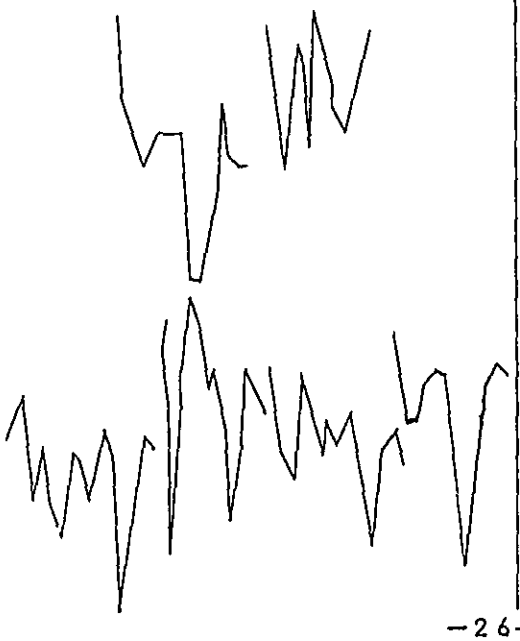
2.　動き巾大

3.　動き方鋭い

注～曲線は鋭さ極端で出入大

分裂型共通の特性に加え外部からの種々の刺激にきわめて敏感に反応する。

8－5　停　電　型

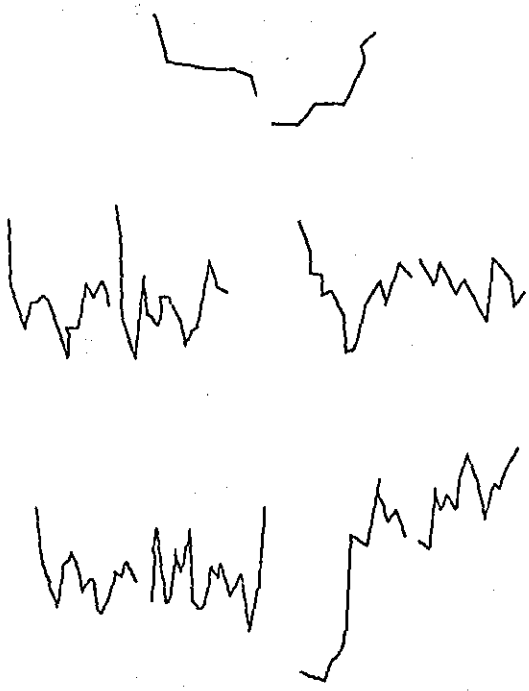


（特　徴）

曲線の基本傾向，曲線の動きの範囲（動き巾）とも不定であるが動き方に陥没が出る。

精神機能が一時停止し，うかつ，ぼんやり等でしばしば停止状態が誘発される。

No 9. 自己顕示型



（特　徴）

1. 曲線の基本傾向不完
2. 曲線の動き巾不完
3. 曲線の動き方不自然

注～曲線は他の９つの型にあてはまらず不定で不自然である。

（誤答頻発）

社会性～分裂型のように人嫌いでなく誰とでも交わるが選択性強く，好き嫌いがはっきりしている。気が強く負けず嫌いで支配傾向が強い。

仕事ぶり～受感性強く要点をよくつかみ，要領もよい。仕事のえりごのみ，自分のためにならないものは手をつけたがらない。

考え方～現実的，経験的に処理する面と，あたかもそれを忘れたごとく形式的に理論を強調する面を併存している。

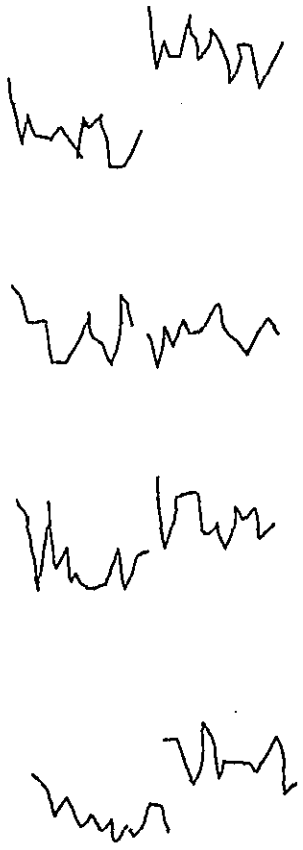
情　意～感情は鋭く，激しく強く表に現われ変化大。意志強くずばずばと思い切って行なうがむらがある。

難　　点～気が強すぎる。功利的，感情の変化大。

不健康時～上記の難点に抑制がき

がなくなり，ごまかし，体裁，嘘つき，見栄っぱり，気どり，うぬぼれ，気まま，お天気，冷酷，執念深さなどが現われる。

16 10. 粘 着 型



（特　徴）

1. 曲線の基本傾向は平担
2. 動き巾は小
3. 動き方は固い

注～曲線は湾曲を示さず平担でゴツゴツし，部分的に平担部が出る。
特定数字に誤りが出ることがある。

社会性～馴れ遅く交友範囲狭く，人当りは柔らかさに乏しくとりつきにくいが，一度交われば誠実で責任感も厚く交わりは深く，かつ長い。

仕事ぶり～適応は遅いが，とりつけば凡帳面でまじめ，慎重に事を運びコツコツと粘り抜く。
多くのことを一度に手がけたり，臨機応変に処理することなどは不得手。
柔軟性，融通に欠ける。

考え方～きわめて堅実で冷静時間をかけて筋を通す信念をもって動く

態度を示す巾広い感えをする点に欠ける。

情　意～喜怒哀楽の情が内にこもって表情は硬い。意志はくいついたら離れない強さがある。

難　点一固執にすぎて融通がきかない。爆発がときどきある。

不健康時一以上が高まって頑固，強情，つむじ曲り，短気，暴行などが起り易い。

5.曲線判定の基本

前項では人柄類型別の特性と，それぞれの曲線型の示す特徴について記したが，これらの曲線は一部類似しているものもあって，正確な判定には相当の"馴れ"が必要である。

前項ではまず曲線の特徴として，1.曲線の基本傾向，2.曲線の動き巾（動きの範囲），3.曲線の動き方を述べ，次に注としてその型について云える"特に目立つ点"を記し，更に曲線例を数例挙げたが，ここでは"曲線の見どころ"を一応理解できたものとして，曲線判定のポイントについて復習の意味で述べることとする。

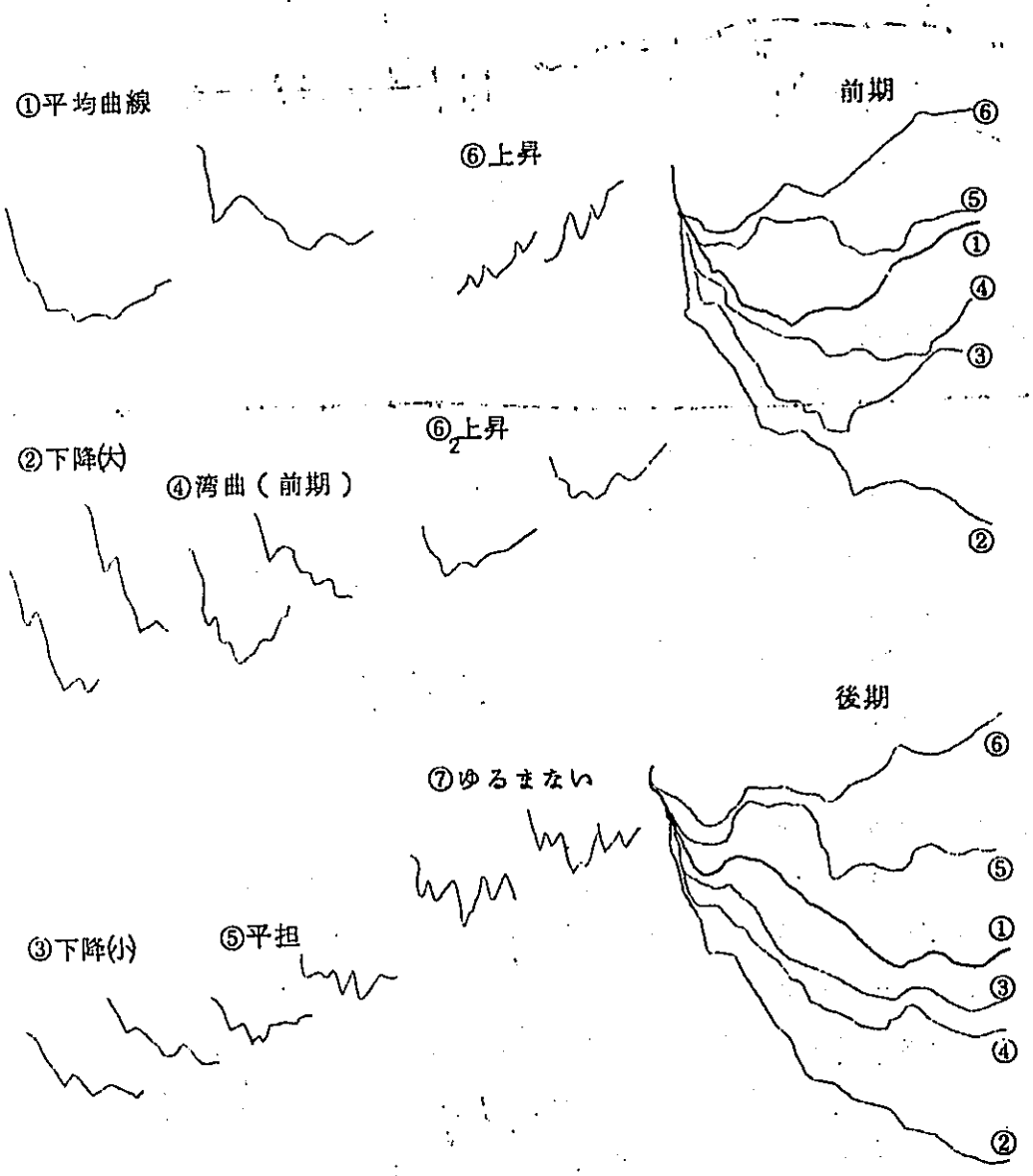
（曲線判定には基本傾向，動き巾，動き方の3つのポイントでふるいにかけて全然異なるタイプを除外するとともに，最も3つのポイントのあてはまる型を選び出し，きめ手としてここで述べる細目とチエックして最終的に型を見出す方法が一般的である。

なお，「その型の"特に目立つ特徴"と曲線型」を他の種々の型と比較しながら各人柄曲線型を把握し，ある人柄と他の人柄が曲線上でどのように違うかを比較する目をもつことが必要である。）

(1)　曲線の基本傾向

曲線の基本傾向をつかむためには，平均曲線との比較において下るか，上るか（どの程度）、平担かなどを見る。

(1) 曲線の基本傾向


①平均曲線
⑥上昇
前期
⑥
⑤
①
④
③
②
⑥2上昇
②下降(大)
④湾曲（前期）
後期
⑥
⑦ゆるまない
⑤
①
③
④
②
③下降(小)
⑤平担

(2)曲線の動きの範囲（出入中）

曲線の動き（ぎざぎざの出入巾）が大か小かを見る。

①$_1$ 大

②$_1$ 小

①$_2$ 大

②$_2$小

(3)曲線の動き方

曲線がどんな動きをするかによって区分する。

①$_1$ 小ぎざみ

①$_2$

③凸凹角ばる（強い）

②凸凹固い動き

②$_2$

④凸凹鋭い（棲細）

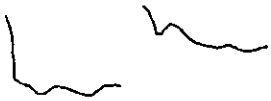
⑤凸凹丸い（角ばらない）

⑤3

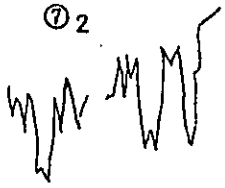
⑤2

⑥2

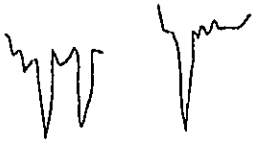
⑥1のっぺり



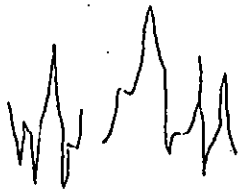
⑦2



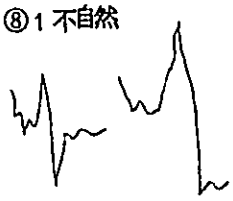
⑦ 陥没（穴）



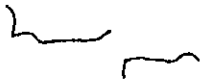
⑧3



⑧1不自然



⑧2



6. 判定項目一覧

大項目 / 小項目 / 人柄類型		1.曲線の基本傾向(平均曲線との比較)							2.曲線の動きの範囲		3. 曲線の動き方								初頭部		誤答	
		※8 不定	② 下降大	② 下降小	④ 湾曲	⑤ 平担	⑥ 上昇	⑦ ゆるまない	① 大	② 小	① 小きざみ	② 凸凹固い	③ 凸凹強い	④ 凸凹鋭い	⑤ 凸凹丸い	⑥ のっぺり	⑦ 陥没	⑧ 不自然	① よく出る	② 出ない	① 解禁止	② 特定数字
おだやか型	1			○						○	○											
神経質型	2		○							○	○								○			
躁うつ型 ほがらか型	3−1						△	○	○				△		○				○		△	
躁うつ型 じっくり型	3−1 d						○	△	△						○					△		
躁うつ型 温和型	3−2		△		○										○				○			
躁うつ型 抑うつ型	3−3		○												○							
強気敢行型	4						△	○	○				○									
地道粘り型	5					△		△				○	△		△					△		○
あっさり実行型	6		○						○				○						○		△	
内的安定型	7						○			○	○											
分裂型 むき熱中型	8−1						○		○					○						○		
分裂型 鈍麻型	8−2	○				△				○						○						
分裂型 自閉型	8−3						○		○					○						○		
分裂型 敏感型	8−4	○							○					○								
分裂型 停電型	8−5	○															○					
自己顕示型	9	○																○			○	
粘着型	10					○				○		○										○

○ その人柄を特徴づける傾向

△ その項目が該当する場合があるという意味

7.矢田部ギルフォード性格検査法について（Ｙ－Ｇ検査）

南米技術移住者選考には，内田クレペリン精神検査により精神の健康度，人柄判定を行なっており，現在Ｙ－Ｇ検査は採用していないが参考迄に実施方法ならびに整理，診断方法の概要について述べる。

なお，クレペリン検査とＹ－Ｇ検査を１０６名について実施した結果を分類し掲載したが，Ｙ－Ｇ検査の型とクレペリン人柄形態の関連がある程度現われていて興味深いものがある。

(1) 実施上の注意

ア　注意事項を読む

イ　氏名等を記入させる

ウ　作者の言葉を読む

エ　練習をさせる

オ　答の書き方（訂正の仕方）を説明する

カ　速さは設問の読み上げ３ 秒 ，記入には２－４ 秒 の余裕を与える。

(2) 採点法と整理

ア　採点上の注意

○２点，▽１点，●▲は最初の反応を重視するので採点しない。

イ　Ｄ，Ｃ，Ｉ，Ｎ……Ａ，Ｓの採点～例Ａ

各列を採点し右端欄へ記入

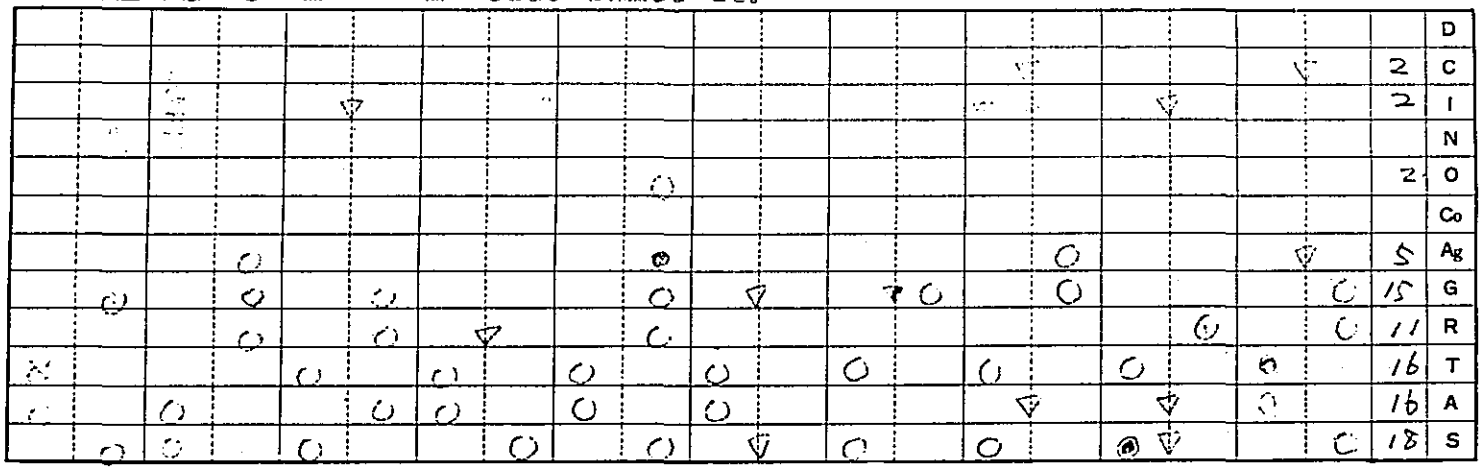
ウ．性格検査プロフィール欄への記入～例Ｂ

(ｱ) Ｄ，Ｃ，Ｉ，Ｎ……Ａ，Ｓの各欄の数字を採点数に応じ赤○で囲む。

(ｲ) Ｄ，Ｃ，Ｉ，Ｎ……Ａ，Ｓ迄の数字を赤エンピツを用いて結ぶ。

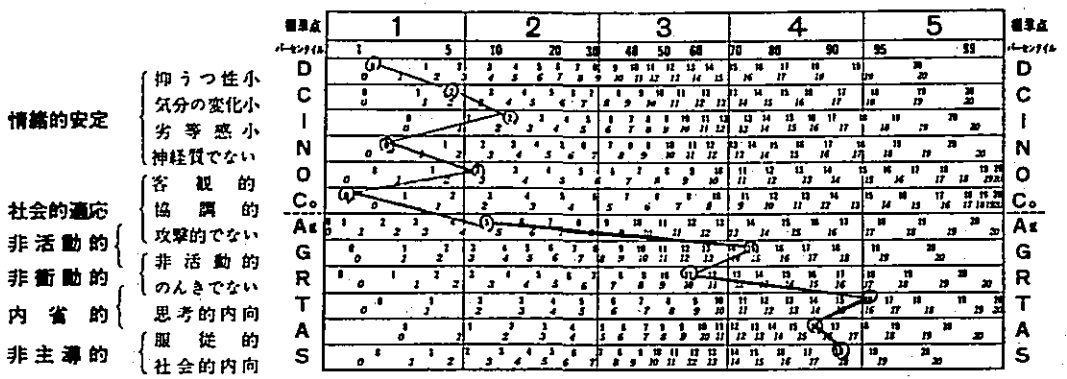
採点例　A

採点上の注意――○　2点　▽　1点　●および▼は採点しないこと。



例　B

矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

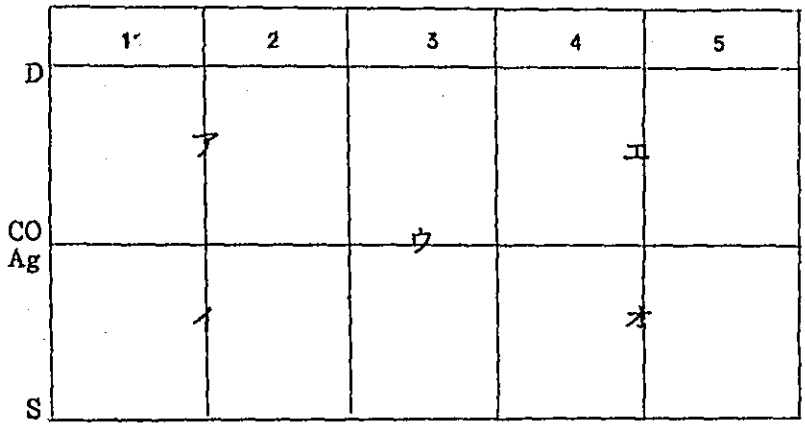


E系統値 /	C系統値 7	A系統値 /	B系統値 4	D系統値 10		判定	
			年　月　日生	男　女 (上12)　(下12)			型

(3) 系統値を求める ～ 例B

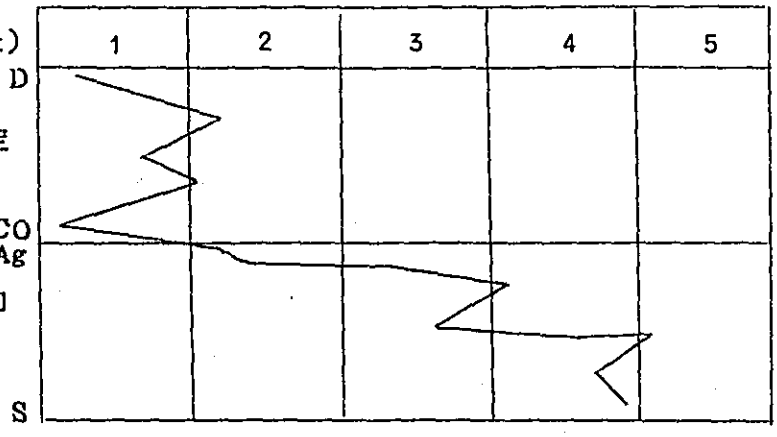
ア プロフィールの赤○を勘定し、E系統値、C、A、B、D欄へそれぞれ記入

A 系統値～間中のウの箇所をプラス。°
B 〃 ～右のエオ 〃 。
C 〃 ～左のアイ 〃 。
D 〃 ～右下りにアオ 〃 。
E 〃 ～左下りにエイ 〃 。



例Bの診断

① Dが10(9以上)
～D型
情緒一極めて安定
社会適応一適応・
平均
向性一極めて外向
性あり



(4) 診　断　法

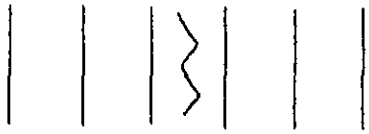
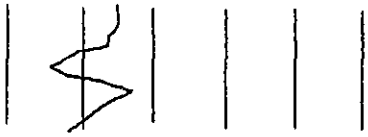
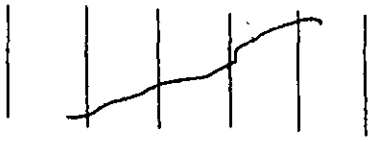
ア　診断の種類

要因ごとの判定

尺度ごとの判定

全体プロフイールの判定

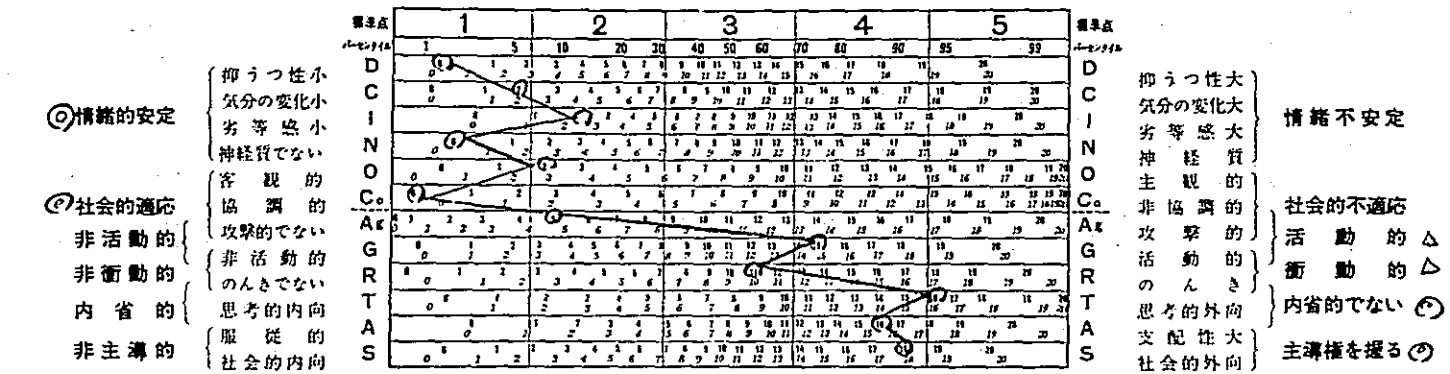
イ　全体プロフイールの判定

		情　緒	社会適応	向　性
	A平均	平　均	平　均	平　均
	B右寄り	不安定	不適応	外　向
	C左寄り	安　定	適　応	内　向
	D右下り	安　定	適応または平均	外　向
	E左下り	不安定	不適応または平均	内　向

ウ　要因ごとの判定、尺度ごとの判定

例C

矢田部ギルフォード性格検査プロフィール



E系統値 1	C系統値 7	A系統値 1	B系統値 4	D系統値 10		判定	D 型
		年　月　日生		男　女 (上12)　(下12)			

例－D

調査される十二の性格特徴は高得点ほど下記傾向が強くなる

D　抑うつ性……陰気，悲観的気分，罪悪感の強い性質　0

C　回帰性傾向……著しい気分の変化，驚きやすい性質　2

I　劣等感の強いこと…自信の欠之，自己の過小評価，不適応感が強い 2

N　神経質……心配性，神経質，ノイローゼ気味　0

O　客観的でないこと…空想的，過敏性，主観性　2

C　協調的でないこと…不満が多い，人を信用しない性質　0

A　愛想の悪いこと……攻撃的，社会的活動性，但しこの性質が強すぎると社会的不的応になりやすい。　5

G　一般的活動性……活発な性質，身体を動かすことが好き　15

R　のんきさ……気がるな，のんきな，活発，動的な性質　11

T　思考的外向……非熟慮的，瞑想的および反省的の反対傾向　16

A　支配性……社会的指導性，リーダーシップのある性質　16

S　社会的外向……対人的に外向的，社交的，社会的接触を好む傾向　18

エ、全体プロフイール判定基準表とあてはめ方

プロフイール判定基準	類＼型	A類	B類	C類	D類	E類
	典型	A型 ××9××	B型 ×××8×	C型 ×7×××	D型 ××××9	E型 9××××
	準型	A型 ××8××	B型 B型以外のB系統 8××8× 7××7× 6××6× ×××6×	C型 C型以外のC系統 88××× 77××× 66××× ×66××	D型以外のD系統	E型以外のE系統
	混合型	A型 他系統4以下の系統 ×444×含む	AB型 ×× 75× ×× 755 ×× 65× ×× 655 ×× 55× ×× ×77 ×× ×66	AC型 × 57×× × 57×5 × 56×× × 56×5 × 55×× × 7××7 × 7××6	AD型 ××7×5 ××6×6 ××6×5 ××5×5	AE型 ×5×7×× 6×6×× 5×6×× 5×5××

単純最大

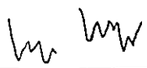
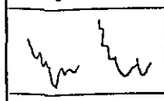
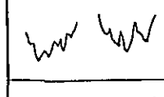
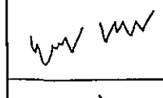
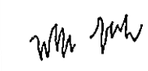
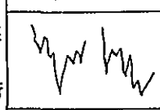
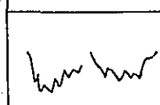
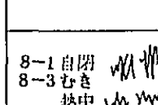
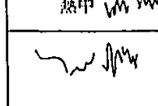
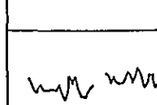
A型	最大－A 9 以上	A 8 － A′型	Aが 7 6 5 で他の数値が 4 以下の場合→A″型。Aが 7.6 で他系統数値が 5 の場合
B型	〃 －B 9 以上	のこり－B′型	①B，5。②B E が 5。 ＞AB型
C型	〃 －C 9 以上	のこり－C′型	③B・Dが 5
D型	〃 －D 9 以上	のこり－D′型	①C，5。②C・Dが 5。③C・Eが 5。 ＞AC型
E型	〃 －E 9 以上	のこり－E′型	①D，5 ＞AD型 ①E，5 ＞AE型

同数最大

A－C同数最大	6－6	B′型	5－5	AB型
A－D 〃	6－6	C′	5－5	AC型
A－E 〃	6－6または 5－5			AD型
B－D 〃	すべてAB型			
B－E 〃	すべて B′型			
C－D 〃	すべてAC型			
C－E 〃	すべて C′型			

8. クレペリン性格類型とＹ－Ｇ検査

	A			B			C			D			E			計	
	A	A′	A″	B	B′	AB	C	C′	AC	D	D′	AD	E	E′	AE		
1							2	1		1	2	2				8	→
								3			5						
2		1	2		2					1	1	1	1	1		10	→
		3			2						3			2			
3−1			1							2						3	→
		1									2						
3−1d					1	1			1		5	1			1	10	→
					2			1			6			1			
3−2		1	1					2		2	4					10	→
		2						2			1						
4					1	3				2	1					7	→
					4						3						
5	2		2		1		1	1	2	1	1					11	→
	4				1			4			2						
6		2	1							3		3				9	→
		3									6						
7							1			3	4					8	→
								1			7						
8		1	1				1		1	1			1	2		7	→
		2						1			1			3			
9		1		1	1	2										5	→
		1			4												
10		2	5							3	5	3				18	→
		7									11						
計	2	8	13	1	6	6	4	4	4	19	23	10	2	3	1	106	
		23			13			12			52			6			

	クレペリン				Ｙ－Ｇ					
		曲線	特徴	人柄	情緒	社会適応	向性	情緒	社会適応	向性
おだやか神経質		下降〜小 動き巾せまく、小きざみ	①社会性 ②仕事ぶり ③考え方 ④情意一	素直協調 細心慎重 中庸（気力欠）	C 安定	適応	内向	D 安定	適応 （平均）	外向
朗らか型		下降〜大 動き巾せまく、小きざみ 初頭出る		素直、気づかい 牛間どる、慎重、確実 中庸、逃避（意志欠）	A 平均	CDのほか 平均	平均	B 不安定	不適応	外向
じっくり温和型		ゆるまず　丸い、強く 動き巾大　角ばらず 固くない 初頭出る		明るく元気、したしみ 適応、能率的 現実的、表に出る（意志不定）	A			D		
強気		上昇、丸くて 動き巾大 初頭出ず		口数少く気軽さなし てきぱきせず じっくり筋を通す （気の重さ）	D多し 安定	適応 （平均）	外向	B 不安定	不適応	外向
地道粘り		下△ 前半わん曲、後半ゆるやかに下降 丸く、初頭出る。	（気迫なし）	明るく元気はしやぎなし 妥協的、あけつぱなし弱	D多し 安定	適応 （平均）	外向	B、C		
あっさり実行		上△ 動き巾大、凸凹強い	（強気）	強気つき合広いが好ききらいはっきり、実行力、粘り実際的あけ　けひかえ目、責任感	B 不安定	不定応	外向	D 安定	適応 （平均） 及びBD	外向
内的安定		前半3−1似る　談答 後半たん盛り上り下がる、固い動き　特数定字	（適応遅く柔軟性不足）	牛固く粘り、表情乏しく短気、折衷なし	A 平均	平均	平均	C 安定	適応	内向
分裂		下降〜大 動き巾大、角く角ばる 初頭出ぐんぐんお降	あけっぱなしではげしい （ブレーキ不足）	あけっぴろげ、さばさば 自己中心も出る 適応、速度早く、 現実的、実行力、	D 安定	適応 （平均）	外向	A 平均	平均	平均
自己顕示		上昇 動き巾小、小きざみ （3−1、3−1dより上昇傾向で初頭出る。	※尻上りの点 3−1dと似るが3−1d（若干）も初頭あり	安定、中庸、協調的、 中道、素直、適応、粘り あり、早く　軟性、	D 安定	適応 （平均）	外向	C 安定	適応	内向
粘着型		上昇 8−2 続き型 のっぺり 上昇少し8−4	8−5停電型 陥没が出る。	情緒不安定、　人 8−1 活動　2.無関心間 3.自閉型　4.自閉　嫌 5.作業　害　い	E 不安定	不適応 （平均）	内向	A・C・D		
		平 動き巾小さく固り、ゴツゴツに平担部あり、	うつの往来 のごとく固執 (−)爆発が往来	人当り柔かさ乏けるが 一度交れば深く長い コツコツ粘り、　通欠 ける、賢実で信　あり 短気、	B 不安定	不適応	外向	A 平均	平均	平均
			気が強く、抑制不能 実行早いがえりごのみする。	気が強く、与配性、 受感性強く、要領より、 自己中心、鋭に激しい	D 安定	適応 平均	外向	A		